

PNLSC

2024年度活動報告書

I 活動報告

1・フィリピン残留日系人の日本国籍回復支援事業

- (1) 残留日系人2世の身元探し
- (2) 就籍による2世、2世死亡の場合の3世の日本国籍回復支援
- (3) 外務省との合同2世面接
- (4) 国籍回復対象者のマッピングと意思確認
- (5) 亡くなった2世への出生事項等記載申出による国籍回復支援
- (6) 3世、4世の戸籍登載、国籍取得支援
- (7) 在日在比フィリピン日系人への相談・助言

2・フィリピン残留日系人の一時帰国支援事業

- (1) 親族のフィリピン訪問を支援
- (2) 次年度の一時帰国への準備

3・フィリピン残留日系人に関する研究、講演、広報、出版事業

- (1) 残留日本人2世全体数と内訳の集約
- (2) 広報・出版
 - ① PNLSC ニュースの発行
 - ② Nikkeijin News の発行
 - ③ ホームページ、SNS による発信
 - ④ オンライン寄付サイト「Give One」からの発信
 - ⑤ 「お宝エイド」への登録——物品寄付を通じたファンドレイジング
 - ⑥ エッセイ集『アイデンティティを抱きしめて』発刊
- (3) 講演 (4) 報道実績 (5) 報道への取材協力

4・フィリピン残留日系人に関する政策提言事業

- (1) 国会議員へのロビー活動
- (2) 国連高等難民弁務官 (UNHCR) フィリピン事務所および駐日事務所との協力、連携
- (3) 外務省南東アジア第二課および在マニラ日本大使館との情報交換
- (4) 沖縄県との連携

5・フィリピン残留日系人社会の経済的、文化的発展に寄与する事業

- (1) ホセアバドサントスで簡易太陽光発電装置組立ワークショップ開催
- (2) フィリピン日系人エッセイコンテスト実施
～受賞者決定とオンライン授賞イベント開催

II 組織の現状

- 1・会員数
- 2・会費、寄付の内訳
- 3・組織体制
- 4・会議
- 5・その他





1・フィリピン残留日系人の 日本国籍回復支援事業

(1) 残留日系人2世の身元探し

日本人父の身元（本籍地）が判明することは2世の悲願であると同時に、2世の国籍取得への大きな足掛かりとなる。2024年3月末時点で身元未判明かつ国籍未取得の2世は830人（故人を含む）。フィリピン各地の日系人会から送られてきた調査票（ジェネラルレジストレーション:GR）をもとに、日本国内で、資料・文献調査、親族照会、申請者へのオンライン聞き取りまたは日系人会スタッフやマニラPNLSCスタッフを通じた追加聞き取り調査などを実施し、今期は2世13人（対応する1世数5人）の身元が判明。

PNLSC設立以降2024年12月末までに身元が判明した2世数は718人となる。

身元探しのための2世ないし家族面接はオンライン、対面で随時実施した。

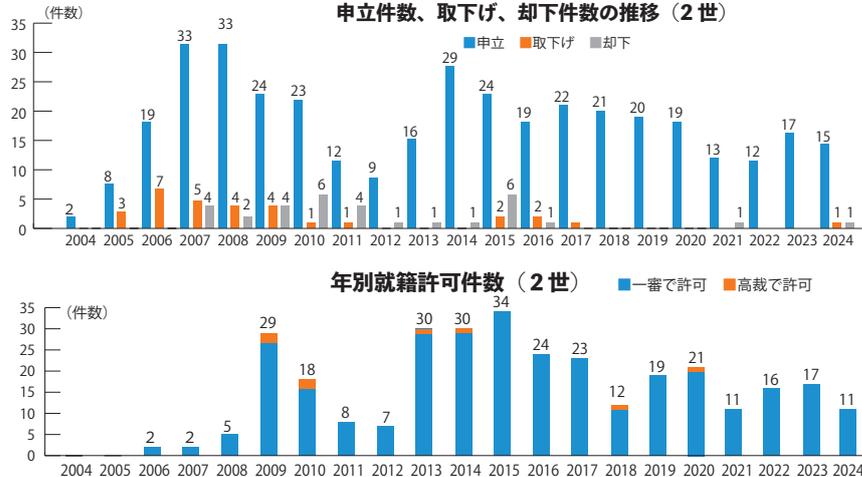
(2) 就籍による2世、2世死亡の場合の3世の日本国籍回復支援

無国籍の2世15人（父戸籍未判明3人）、3世4人の計19人の日本国籍回復を支援し、弁護士を代理人とした家庭裁判所への就籍許可申立てを完了した。19人のうち6人は同年度内に許可が下りた。前年申立てた分を含めると2024年中の許可総数は11人。

事業開始から2024年12月末日までに、2世319人、2世死亡の3世18人が、就籍により国籍を回復した。

PNLSCでは証拠の収集、整理、翻訳、申立人の陳述録取等を担当。弁護団に配転し申立て。

※申立てにかかる弁護士費用や翻訳、諸経費実費について、2020年から日本弁護士会連合会の法テラス委託援助事業を活用（事件ごとに代理人弁護士が申請）し、援助を受けている。



日本国籍を希望するが就籍許可申立てに至らない2世が50人ほど残されている。両親の婚姻の証拠がない/婚外子であることが明らかになった2世に対する救済方法の検討は喫緊の課題。これまでの就籍審判では「法律上の父（両親が法律上の結婚をしていること）を要件として、その子＝2世に出生と同時に日本国籍を認める」という審判を出してきたが、2世が出生したときの国籍法（明治32年3月16日法律第66号。いわゆる旧々国籍法）1条によれば、子が日本国籍を取得するには、出生のとき父が日本人であればよい、とあり、両親が法律上の婚姻をしていることは要件とされていない。この点を裁判所に対して主張し、今後、高裁、最高裁まで争っていく。同時に、日本政府には、すでに外務省総領事がフィリピンにおいて直接面接調査した2世でいまだ無国籍である人について、時間的問題を考慮し、政治決着による国籍付与を求めていく。



フィリピン統計庁（PSA）と日系人会連合会の間で遅延登録に関する新たな協定で合意

戦災で滅失したフィリピン残留2世の出自を証明するためには、出生証明書や両親の婚姻証明書を「遅延登録」で作成する必要があります。遅延登録に関する覚書（フィリピンにおける身分関係登録情報を集約しているフィリピン統計庁（PSA）とフィリピン日系人会連合会による）を更新するため、協議を重ねた結果、2024年8月、18年ぶりに新しい覚書が締結された。協議にはPNLSC、在マニラ日本大使館公使、総領事も参加。その中で懸案として提起されていたのが、遅延登録には各事実を知る第三者2名による宣誓供述書が必須とされていたこと。80歳を越える2世の出生事実や、その両親の婚姻事実を知る証人を見つけることは困難だ。最終的にPSAは11月15日付けで「日系人会連合会傘下の日系人会の地域審査委員会（RSC）が発行する証明書で足りる」とする通達を全国の地方自治体の登録事務所に発信。これにより滞っていた遅延登録が迅速に進むことが期待されている。

（3）外務省との合同2世面接

PNLSCは日系人会と連携し面接候補の決定、面接資料の準備、コーディネートをを行い、実際の面接では、猪俣代表理事が日系人会役員やスタッフとともに同席し補佐した。総領事面接を行った23人中8人につき総領事報告書が発行された。23人中14件が家庭裁判所に就籍許可申立され、7件が許可となった。
※面接をしても出生証明書がない人には総領事報告書が発行されない現状につき、改善を検討中。

2月5～6日	パラワン	2人	花田貴裕公使、山口基頼領事	外務省第17次調査 (2023年6月15日 -2024年3月15日)の一環
2月14日	バギオ	2人		
5月3～5日	パラワン	5人	花田公使、山口領事	外務省第18次調査 (2024年5月1日 -2025年3月15日)の一環
5月27日	マニラ	5人		
7月19日	ダバオ	2人	石川義久総領事	
7月25日	セブ	1人	矢富利夫領事	
8月8日	ダバオ	1人	石川総領事	
11月21日	コタバト	1人	石川総領事	
11月26日	イロイロ	2人	矢富領事	
11月27日	米国（オンライン）	1人		
12月18日	バタンガス	1人	花田公使、栗原忍一領事	

（4）国籍回復対象者のマッピングと意思確認（外務省第17次調査、第18次調査）

- ①日本国外務省・アジア大洋州南東アジア第二課からの委託で、一昨年より継続していた「第17次フィリピン残留日系人2世調査」(~2024年3月15日)として、無国籍のリスクにあるフィリピン残留日系人2世約440人の消息調査、日本国籍取得状況、未取得の場合は日本国籍取得の意思確認を行った。
- ②2024年3月末時点で生存確認がとれている138人中、58人について、日本国籍取得の意思を確認した。
- ③日本国外務省・アジア大洋州南東アジア第二課から委託を受け「第18次フィリピン残留日系人2世調査」(2024年5月1日~2025年3月15日)として、58人の国籍取得を加速化するための総領事面接及び資料収集・調査、さらには生死不明の263人への総当たり調査(消息調査、日本国籍取得状況、未取得の場合日本国籍取得の意思確認)を実施中。

	日本国籍取得済み	国籍未取得のまま死亡	生死不明	生存	総数
2023年3月末	1548	1780	342	151	3821名
2024年3月末	1615	1799	263	138	3815名
2025年3月現在 (暫定)	1649	1841	191	134	3815名



(5) 亡くなった2世への出生事項等記載申出による国籍回復支援

戸籍は判明しているが国籍未回復のまま亡くなった2世9人について、3世等を申出人とする「出生事項記載申出」を、父親の本籍地役場に提出し、2件が記載許可、7件が継続中。記載許可となった2件は、2021年に記載不許可となったため管轄家裁に「市町村長の行政処分に対する不服申立」をし、2023年末に遅延登録を認める内容の審判がでた後に2024年1月に提出した事案。最初の提出からなんと18年経っていた。同様に、2023年度に不受理となった2件について、2024年4月に新たに「不服申立」し11月に遅延登録を認める審判がおりている（2025年に入って記載済）。このほか前年以前に提出した申出への2024年中の許可は5件、不許可のまま1件、継続中6件。

※市町村で不受理/不許可となり、家裁に「行政処分に対する不服申立」をしたのはこれまでに9件（2025年2月現在）。8件で遅延登録を認める審判がでている。



法務局の遅延登録への厳しい見方は年々強まる傾向

1990年代後半からこの出生事項記載申出の方法で国籍を回復した2世（死亡の2世含む）は相当数にのぼる。1世戸籍が判明していて重婚でない限り、2世が亡くなっても3世が申出できる。

ところが2008年頃から不許可事例が増え始め、この傾向は強まるばかり。出生証や婚姻証が滅失ないし部族婚などで登録がないため、後から遅延登録で作成していることが問題視されているようだ。フィリピンの制度に基づき正規の手続きを経て登録されているにもかかわらず、各市町村役場及び法務局に配られている某文書には

「当該証明書の登録の基礎とされた資料等を、総合的に審査し、当該身分行為があったと認められるときには…管轄法務局の長の許可を得て記載してよい」「一方…確実な資料の裏付けがない場合や…信憑性に疑義がある場合は…応じることはできない」と記されており、結果、各管轄法務局は厳密な登録の基礎資料の提出がなければ認めないと判断している。

(6) 3世、4世の戸籍登載、国籍取得支援

国籍回復済み2世男性の子である3世2人、4世2人につき、出生事項記載申出による戸籍登載・国籍取得を支援した。今期提出の3世2人、一昨年提出の3世8人、5世1人が戸籍に記載された。

(7) 在日在比フィリピン日系人への相談・助言

在日在比のフィリピン日系人（3世・4世を含む）からの、戸籍登載、国籍取得、帰化、日本国籍取得等に関する相談に応じた（電話/メール/来所）。

相談例◎身元探し（在カナダのフィリピン日系人の来所1、メールによる相談3）

亡くなった2世の戸籍登載の可否や手続きの進め方について

3世の戸籍登載/3世就籍について（2世が男性の場合）

3世の国籍取得について（2世が女性の場合で、2世の就籍直後の申請）

4、5世の国籍取得について/3世の帰化について/在留資格の更新について





2・フィリピン残留日系人2世の 一時帰国支援事業

(1) 親族のフィリピン訪問を支援

2世の一時帰国事業については、本年度は実施しなかった。一方で、2023年12月に一時帰国で沖縄の親族を訪問したパラワン出身の赤比地サムエルさんが、その後も沖縄の親族とオンラインなどを利用して交流を継続。PNLSCからは猪俣が沖縄の親族を訪ねて、これらの交流をフォローした。

その後、沖縄の親族からフィリピンのサムエルさんを訪ねたいとお申し出があり、PNLSCのアレンジにより、2024年11月沖縄県うるま市平安座島在住の親族3名の渡比が実現した。

フィリピン滞在は11月14日から16日までの予定が、台風の直撃により18日まで延長。パラワン州コロン町に住むサムエルさんを訪問し、サムエルさんの家族が用意したごちそうを囲み、また1世の妻のお墓参りに行くなど充実の時間を過ごした。親族滞在中には、サムエルさんの就籍許可の審判が下りたという嬉しい知らせが東京から届いた。久しぶりの親族による沖縄訪問は、ほかの残留者に希望をもたらす喜ばしいニュースとして現地で受け止められている。

今回の親族によるフィリピン訪問とサムエルさん就籍のニュースは、さまざまなメディアで取り上げられることとなり、現地取材も当所が全面的にフォローした。



コロン町で再会を喜ぶ赤比地サムエルさんと沖縄の親戚の皆さん。写真右は、サムエルさんの父、香村(旧姓・赤比地)勲さんがフィリピンゲリラに殺害された場所を慰霊に訪れたときの様子。

(2) 次年度(2025年度)の一時帰国への準備

次年度に予定している一時帰国実施に向けて、対象者の選定などを始めている。





3・フィリピン残留日系人に関する 研究、講演、広報、出版事業

(1) 残留日系人2世全体数と内訳の集約

外務省第17次調査の一環として実施した残留日系人2世の消息調査(対象者約400人)にとどまらず、残留2世の動態把握についての情報収集、調査につとめ、データベースに反映、第17次調査報告終了(2024年3月末)時点でのフィリピン残留日系人2世の全体像(身元判明状況、生存死亡、国籍取得の有無等内訳)を明らかにした。(1・(4)参照)。この調査は常時継続しており、次回集約は2025年3月15日の第18次調査終了時。

(2) 広報・出版

① PNLSC ニュースの発行

81号から84号までの4号を発行(1月、4月、7月、10月)し、会員、支援者、関係諸団体に発送、また大学での講義等で配布した。各約1000部印刷。希望者、関係者にPDF版をメール配信。

② Nikkei-jin News の発行

同じタイミングで63号から66号までをPNLSC Inc.と共同で発行し、フィリピン国内では各日系人会や日系人会員に配布、日本国内では日系人会員に直接、また日系人を雇用する企業に送付した。各900部印刷。希望者、関係者にPDF版をメール配信。

③ ホームページ、SNS による発信

団体ホームページを随時更新し、報告やマスコミ報道の告知を行った。

<http://pnlsc.com/>

フェイスブックの公開グループ<PNLSC JAPAN>及び<PNLSC Manila>で随時情報発信した。

<https://www.facebook.com/groups/pnlscjapan/>

<https://www.facebook.com/pnlsc/>



④ オンライン寄付サイト「Give One」からの発信

公益財団法人パブリックリソースセンターが運営する「オンライン寄付サイト Give One」(<http://giveone.net>)に2020年5月から登録し、寄付プロジェクトとして「フィリピン残留日本人2世国籍回復支援プロジェクト」を掲載している。同サイトを通じ、匿名で毎月の継続寄付がある。



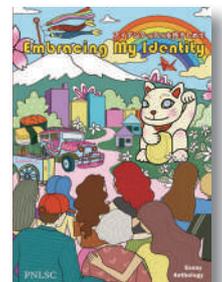
⑤ 「お宝エイド」への登録——物品寄付を通じたファンドレイジング

2021年度から、物品寄付を通じてNPOを応援する仕組みを展開する「お宝エイド」(寄付物品の査定額に10%上乗せした額がお宝エイドを通じて寄付者指定のNPOに振り込まれる)に登録。2024年度中は6口の物品寄付が89,578円の寄付につながった。今後、さらなる周知に努めていく。



⑥ 日系人によるエッセイ集「アイデンティティを抱きしめて」発刊

2023年に実施したエッセイコンテストの受賞作品と、惜しくも受賞は逃したものの、審査員の印象に残った「奨励作品」を加えた全17作品を集めて、フィリピン日系人初のエッセイアンソロジー『アイデンティティを抱きしめて』(英題: Embracing My Identity)(本文98ページ)を、ラッシュジャパン チャリティバンクからの助成金をいただき発刊した。送料負担で誰でも入手可。



(3) 講演

- ① 10月30日、城西大学で猪俣代表理事が講義。
- ② 11月18日、武蔵大学にて田近が講義。
- ③ 12月3日、東京外国語大学にて石井事務局長が講義。





2024 年度もボランティアのみなさまが大活躍！

ニュースレター発送作業にはボランティアさんが大活躍。随時4～5人の方が発送前準備作業(切手、宛名シール貼り)及び、ニュースの折り、封入作業を手伝って下さっています。できる範囲で、来られるときに。今後も参加を呼び掛けていきます。

(4) 報道実績 (新聞 17、Web 媒体 14、テレビ 6)

●新聞 (17)			●Web 媒体 (14)		
2月8日	西日本新聞	2023 年末の沖縄一時帰国について	2月15日	朝日新聞 デジタル with Planet	コラム「日本人として認められたい」 フィリピン残留2世の戦後
2月28日	福井新聞	長谷川姉妹の出生届を越前市役所が受理 質問なるほど	2月22日	佼成新聞 デジタル	今なお続く戦後を生きる
3月21日	毎日新聞	フィリピン残留日本人2世って？	5月30日	Kyodo web	フィリピンで日系2世支援本格化 総領事面接で「おわび」
3月25日	佼成新聞	石川ダバオ総領事と猪俣の対談	6月28日	Kyodo web	早期国籍回復へ支援強化、 上川外相 フィリピンの日系2世巡り
4月9日	琉球新報	赤比地サムエル就籍許可申立 2023 年末の沖縄一時帰国について (論壇・玉榮さん)	8月24日	テレ朝 News	「みつけてくれてありがとう」
4月24日	沖縄タイムス	2023 年末の沖縄一時帰国について (論壇・玉榮さん)	9月25日	kyodo News	【速報】フィリピン残留2人が日本国籍回復 那覇家裁認定、日本大使館が支援
6月27日	琉球新報	赤比地サムエル親戚へのインタビュー	9月25日	テレ朝 News	【速報】フィリピン残留2世の姉妹が国籍回復 フィリピン残留2世の姉妹が日本国籍回復
7月2日	東京新聞	花田総領事パラワン訪問	9月26日	琉球朝日放送	那覇家裁が許可
8月19日	まにら新聞	就籍は「二世の存在証明」 梅村みずほ議員インタビュー	9月26日	kyodo News	日本国籍回復も「手遅れ」フィリピン、 虐殺恐れ山奥に逃避
8月26日	まにら新聞	ミンタルで慰霊祭開催	10月1日	テレ朝 News	【独自】日本国籍回復を告げられ「父の故郷、 沖縄に行きたい」比残留2世姉妹が歓喜
9月15日	まにら新聞	塩村あやか議員単独インタビュー	11月15日	共同 NEWS	フィリピンの2世、日本国籍回復 沖縄県の 親族と歓喜
9月26日	東京新聞	盛根姉妹 日本国籍回復	11月15日	NHKnewsweb	太平洋戦争後フィリピンに残された日本人男 性日本国籍を取得
10月1日	まにら新聞	「戦後終わっていない」 僻地日系人集落を訪ねて (上)	11月16日	沖縄タイムス	フィリピン残留2世のアカヒジさん、日本国 籍を回復 父親が沖縄出身 那覇家裁が認定、 親族が報告
10月10日	まにら新聞	「戦後終わっていない」 僻地日系人集落を訪ねて (中)	11月26日	NHK 沖縄 Web	父親が沖縄出身 フィリピン残留の日本人男性が日本国籍取得
10月17日	まにら新聞	「戦後終わっていない」 僻地日系人集落を訪ねて (下)			
10月23日	まにら新聞	「日本人の忘れもの」上映 イロイロ市			
11月11日	まにら新聞	大野理事単独インタビュー			
●テレビ (6)					
8月17日	テレビ朝日	テレメンタリー「続・彷徨い続ける同胞」 キャッチ！世界のトップニュース			
10月1日	NHK	特集「" 残留日本人 " の現実は」			
10月23日	NHK World	Kin of war-displaced Japanese in Philippines long for recognition			
11月15日	テレビ朝日	残留2世の男性 日本国籍を回復			
11月15日	琉球朝日放送	残留2世アカヒジさんの国籍が回復			
11月18日	琉球放送	フィリピン残留日本人2世「アカヒジ・ サムエルさん」に就籍許可			

(5) 報道への取材協力

PNLSCが取材に全面協力し、2023年8月に放送されたフィリピン残留日本人2世のドキュメンタリー企画「彷徨い続ける同胞」(「**テレメンタリー**」・**テレビ朝日**)が、2024年4月、ドイツ・ハンブルクで開催された「第25回World Media Festivals」のドキュメンタリー部門で銀賞を受賞、さらに12月には、トルコ・イスタンブールで開催された「ABU(アジア太平洋放送連合)2024」にて、テレビ・ドキュメンタリー部門の特別奨励賞を受賞。2024年に続編の制作が決まり、今回もPNLSCが取材に全面協力した。「続・彷徨い続ける同胞」として、2024年8月17日に放送された。

また、赤比地サムエルさんの沖縄の親族がフィリピンのサムエルさんを訪問した際にも、**琉球朝日放送**や**琉球放送**、**テレビ朝日**の現地取材に全面協力した。



「捨てられた日本人」戦争で国を離れにされ、フィリピンで暮らす「無国籍」帰国日本人続出。奇跡の来日、沖縄と離れられたい。異国化進む中、上川外務大臣の発言は？【テレメンタリー】



見逃し
配信中！





4・フィリピン残留日系人に関する 政策提言事業

(1) 国会議員へのロビー活動

- ① 7月、梅村みずほ参議院議員(日本維新の会)がフィリピンに渡り、各地の日系人と交流した。24日はセブ日系人会を訪問、ベネディクトオナリさんら日系人会メンバーと面会し、活動状況や今後の方向性について意見交換。梅村議員は日比戦没者への追悼を表明。翌25日はセブ郊外のプリフィカシオンイデモトさんを自宅に訪問しヒアリング(セブ領事館の矢富利夫領事もオンラインで参加)。30日にはダバオの日系人会を訪問、8月3日にマニラ日比協会のメンバーと懇談。
- ② 8月、塩村あやか参議院議員(立憲民主党)がダバオを訪問し、ミンタル公共墓地で開催された慰霊祭に参加、スピーチで日本人入植者およびすべての戦争犠牲者への哀悼の意を表明。
- ③ 4月、猪俣代表理事が、当所の賛助会員でもある青山大人衆議院議員及び堂込麻紀子参議院議員を訪問。石井事務局長、田母神が英莉アルフィア衆議院議員を訪問。
- ④ 9月、河合代表理事、石井事務局長、田近がUNHCR議員連盟会長の逢沢一郎衆議院議員を訪問。

(2) 国連高等難民弁務官 (UNHCR) フィリピン事務所および駐日事務所との協力、連携 随時、情報交換をおこなった。

(3) 外務省南東アジア第二課および在マニラ日本大使館との情報交換 随時、情報交換をおこなった。

(4) 沖縄県との連携

沖縄県議会議員の協力を得ながら、沖縄出身の父を持つ残留者の身元捜しに関し、猪俣代表理事もたびたび沖縄に出張し、沖縄県との連携を模索してきたところ、県の保護・援護課より、県のHPを活用しての情報掲載や、県内市町村の援護担当部局に対する情報提供の協力依頼、県の広報媒体を使用しての周知、県からマスコミへの情報提供などの提案を受け、これらの実現に向けて、現在も協力関係を構築中である。

上川外務大臣(当時)の半年前の答弁を受けて、日本政府の取り組みの進捗について塩村議員が質問、「認識は同じ」と岩屋外務大臣が答弁

立憲民主党の塩村あやか参議院議員が、2024年12月19日の外交防衛委員会で質問に立ち、フィリピン残留2世問題を取り上げた。

この問題については、半年前の6月28日に上川陽子外務大臣(当時)が「希望する方の一日も早い国籍回復や一時帰国に向けて支援を進める」と答弁している。これを踏まえ、塩村議員が現・岩屋毅外務大臣に一時帰国などの進捗について質した。岩屋大臣は、上川前大臣と同じ認識でいること、また2016年から在比日本大使館が現地で調査を行い証明書を発行していることに加え、最近ではフィリピン政府側においても、遅延登録の際の要件緩和など、進展があったことを答弁した。

塩村議員が、2世の高齢化が進んでいることから対応を急いでほしいと重ねて迫り、岩屋大臣は「一刻も早く進むよう最大限努力する」と答弁した。外務大臣の答弁の重みを受け止め、日本政府の真摯かつ迅速な対応を引き続き求めていきたい。





5・フィリピン残留日系人社会の 経済的、文化的発展のために寄与する事業

(1) ミンダナオ島南端ホセアバドサントスで簡易太陽光発電装置組立ワークショップ開催

2024年9月12日～16日、ミンダナオ島南端ホセアバドサントス町の日系人が多く暮らす地域で、簡易太陽光発電装置組み立てワークショップを開催した。同エリアは社会インフラが未整備のため、電気にアクセスできない人々が多く暮らしている。2022年のパラワン島でのワークショップに続き、今回も NGO リッターオブライートの協力を得て、地元の日系人が中心になって会場を取り仕切った。装置の仕組みや作動確認方法などについてオリエンテーションを実施したのち、住民代表が組み立てに参加。完成後は1世帯につき1個ずつ発電装置を配布、電気にアクセスできない約160の世帯に発電装置を届けた。

ワークショップ開催に先立ち、「CAMPFIRE」にてクラウドファンディングを開始、目標額である100万円を無事に達成し、ワークショップの開催に至った。



日系人を中心に、地域の住民が大勢集まり、太陽光発電装置の仕組みを学び、住民代表やボランティアが組立に参加。参加者からは「日没後も子どもが勉強できるように嬉し」「生活が便利になり満足」などの声が寄せられた。

リッターオブライートとは

ペットボトルを再利用した小型太陽光発電装置で、フィリピン人イリアック・ディアス氏が普及に努めるオープンソーステクノロジー。その簡易性や利便性から世界の貧困地域でオルタナティブなエネルギー源として注目を集めている。



一般のボランティア参加者を募集

今回のワークショップには、広く一般からの参加者も公募。20代から30代の若者5名が参加した。参加者はいずれもフィリピン残留者問題を初めて知ったということで、残留者たちの過酷な生活状況などに触れ、現地の大学生ボランティアなどとの交流を通じて多くを学んだ様子だった。

(2) フィリピン日系人エッセイコンテスト実施～受賞者決定とオンライン授賞イベント開催

2023年12月末を応募締切として9月から作品を募集したフィリピン日系人エッセイコンテストには、大人部門21、若者部門10、子ども部門3の計34作品が在日在比の日系人(2世～5世、9歳～90歳)から集まった。翻訳を付したうえで7名の審査員に送付。3月12日にオンライン審査会を開催し、大人部門から5、若者部門から6、子ども部門から3人の受賞者が決定された。3月末から4月にかけてHP、ニュースレターで結果発表し、特別賞受賞者には航空券、その他の受賞者には賞金を贈った(原資は2023年に9社から頂戴した協賛金32万円とフリーチケット)。8月24日にはオンラインで授賞式兼ワークショップを開催。受賞者4名、審査員6人を含む総勢35人が日比の各地から参加した。受賞者紹介、講評に続き、後半は4グループに分かれてフリートークを実施。フィリピン日系人問題の現在地や今後の展望などについて意見交換した。このイベントとエッセイ集の発刊は、ラッシュュジャパンチャリティバンクからの助成金により実施した。



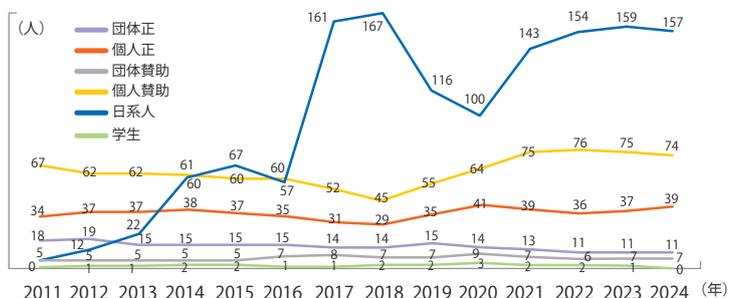


1・会員数

2024年度12月末の
会員数は右の通り。

	団 体	個 人
正会員	11(新入会1、退会1)	39(新入会2、退会0)⇒増2
賛助会員	7(新入会1、退会1)	75(新入会6、退会6、個人賛助から団体賛助に1)⇒減1
日系人会員		157(新入会18、復帰4、退会24)⇒減2
学生会員		0(新入会0、退会1)⇒減1

PNLSC 会員数の推移



2・会費・寄付の内訳

	件 数	金 額
正会員 (団体)	11口	264,000円
(個人)	38口	456,000円
賛助会員 (団体)	5口	60,000円
(個人)	66口	396,000円
学生会員	0円	
日系人会員	87口	261,000円
寄附	164口 (125人+匿名、少額、役員等)	7,137,212円

※認定NPO法人のパブリックサポートテストにカウントできる
寄付、賛助会費、日系人会費の総件数

223件 (前年217件から6件増)

<認定NPO法人の更新>

5年ごとに必要な更新時期となり、2023年10月に更新申請をしていたところ、2024年4月24日に現地確認のため東京都職員5名が来所、法人運営の状況、帳簿類、商標類、寄付者名簿作成状況につき細かなチェックを受けた。決算書修正の指摘があり臨時総会(書面決議)で修正決算書類が承認されたのち、無事、2024年6月27日付けで更新が認められた(2029年3月19日まで有効)。

4・会議

- (1) 理事会 : 令和6年度理事会
3月13日(オンライン)
- (2) 総会 : 第20回通常総会
3月27日(会場とオンライン)
臨時総会(書面決議)
6月12日
- (3) 事務局会議: 必要に応じて随時行った
(2024年1月9日、2月26日、
4月2日、6月14日、10月4日)

3・組織体制

役員

代表理事 : 猪俣典弘/河合弘之

理事(継続): 伊藤英男/匠 ジュセブン/
青木秀茂/関野 章/大野 俊/
大岩直子

監事(継続): 伊藤佳江

事務局

猪俣典弘(代表理事・常勤)

石井恭子(事務局長・常勤) 田近陽子(常勤)

田母神 葉子(常勤) 大友麻子(非常勤)

※アルバイト3、4人

※税務顧問 奥田よし子税理士

フィリピンでの 事業委託先

現地法人 PNLSCInc. に委託

(会長: 匠ジュセブン)

5・その他

- (1) かめのみ大賞(人材育成部門)の賞金100万円を受領
- (2) ラッシュジャパンから助成金を受領
日系人エッセイコンテストの授賞式兼ワークショップ(オンライン)の開催およびエッセイ集『アイデンティティを抱きしめて』発刊に対し、ラッシュジャパン チャリティバンクから助成金(寄付型)を得た。
- (3) プラチナギルドアワードに応募
認定NPO法人プラチナギルドの会が主催するプラチナギルドアワードに応募した(2024年12月12日申請、第一次審査通過し、結果待ち)。

